

事業所における自己評価結果

事業所名		なかよし学園					公表日 2025/12/16
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	18		広い場での活動も取り入れている。曜日ごとで利用者の人数や園児達の相性、年齢、発達状態等を考慮して、クラス分けや支援室等のスペースの配慮を工夫している。保育園との共有スペースも、互いに声を掛け合い使うことができている。		
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	18		子の様子や、プログラムに応じて職員の配置をかえている。散歩時に衝動的に動いてしまう園児に対して、2対1でしっかりと手をつなぎ安全に配慮している。単独クラスも、親子日を振り分けて、職員がしっかり個々に関われるようになっている。		
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	15	3	視覚的な情報として、写真やイラストを用意し、園児達に分かりやすいよう配慮されている。	古い園舎は段差がある。建物が古いため、トイレや手洗い場等、使いづらいところがある。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	18		協力して掃除したり、気づいたらきれいにしている。室内の換気や温度調節は勿論、感覚統合室では日によってマットなどの配置を変え、園児達に合わせて療育を行っている。建物自体古いが、丁寧な清掃を日々心掛けている。古い建物ではあるが、清潔にして、心地よくすごせるようにしている。		
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	17	1	園児達の衝動や痼癖に合わせ、適宜落ち着ける場所に移動し、様子を伺える様にしている。	個別に使える空き部屋はないため、フリーに使える部屋があると良いかと思う。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	18		職員全員集まることがないので、情報の伝達、共有をしっかりと行うようにしている。職員間の語り合いは、常に行われているので、このまま風通しの良い人間関係でいることで、皆が参画した療育が行われるようにしたい。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	18		改善できる点については速やかに改善するように心掛けている。事業所自体で改善が難しい事は行政に相談している。保護者評価を真摯に受け止め、職員で改善できるよう話たり、出来る関係性がある。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	18		園長や園長代理が常に声をかけたり話を聞いてくれたりと、思いを伝えられる環境にある。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		18			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	18		研修の案内を伝達し、参加したい研修を受けられる環境にある。		
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	18				
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	18		親子通園の日があるため、常に悩みや困り事を聞く機会があり、更に意向を聞き出してから、支援計画を立てている。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	18		必ず担当職員と管理責任者、場合によっては理学療法士が加わり、話し合いの場を設けている。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	18		支援計画に関わる内容を伝えて、皆が同じ対応を出来るようにしている。		
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	18		ツールを使ってのアセスメントは行われていないが、日々の姿を観察し、思考し療育に反映している。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	18		個々の子どもや家族に合わせ、支援内容を立てている。移行支援についても、引き継ぎを行い、安心して移行できるようにしている。		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	18		複数担任で話し合いを行い、更に園全体でも会議を行い決めている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	18		SNSで、新たな活動の情報や知識を取り入れている。	
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	18		同じ活動でも、個々に目的、ねらいを考え、取り組んでいる。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	18		必ずその日の内容について打ち合わせをしたり、共有しておきたいことを確認したりして連携をとるように意識している。活動前に、想定される事に対応できるよう、準備や行動を話し合っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	18		改まって話し合うことをしなくても、自然とコミュニケーションの中で当たり前に行われている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	18			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	18			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	18			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	18			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	18		互いに情報共有を行い、それぞれの場で行える対応をしている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	18			
	28	(28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るために、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	15	3		
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他の子どもと活動する機会があるか。	18		保育園と併設されているので、園庭で遊ぶとき、行事のときなど交流の機会としている。同じ敷地の保育園の活動や行事に参加している。	
	33	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	18			
保護者への説明等	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	18			
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	18			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	18			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	18			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	18			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	18		定期的に、親子支援、なかよしのつどい、オヤジレンジャーなどを実施している。	兄弟支援になるような取り組みはできていなければ今後検討していく。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	18			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	18			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	18			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
非常時等の対応	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	18			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	15	3	事業所に招待することはないが、地域のお祭りに参加させて頂いてる。	
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	18			
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	18		発達障がいのあるお子さんを非常災害の際にどう避難させるのか、子どもの障がいの特徴に合わせてどう行うのがベストなのか、職員間で話す機会を作っている。BCPについては、職員間で読み合わせをして理解を深めようとしている。避難ルートや、役割について、都度確認している。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	18			
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	18			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	18		安全計画をもとに毎月の火災や地震に対する避難訓練や年2回の不審者訓練、災害用伝達訓練を計画的に行っている。また、職員向けにAED訓練や災害に対しての訓練を定期的に行っている。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	18		なかよしよりで月一避難訓練を行い、避難の仕方について保護者に知らせるようにしている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	18			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	18			
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	18			